
2022（令和4）年度事業報告書



<目 次>

2022年度 私たちのミッション	1
1. 重点施策への取り組み概要	1
2. 成果目標への取り組み	1
3. 最重点事業への取り組み	1
4. 最重点施策への取り組み	5
5. その他の事業への取り組み	10
6. 各種会議の開催	23
7. 参考（規程等改正一覧）	26
8. ボーイスカウトエンタープライズ事業報告	27

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

2022（令和4）年度 事業報告

ボーイスカウト日本連盟は、世界スカウト機構（WOSM）、アジア太平洋地域（APR）の加盟国連盟でもあり、それぞれの3カ年計画に準拠し、日本の状況を考慮して以下の事業計画を立案しました。

2022年度 私たちのミッション

創立100周年を機に、
未来に躍進できるスカウト運動を目指すことにより、
より良き社会を創ります

日本連盟のスカウト運動の使命（ミッション）「個人の資質をのばし、地域社会と世界に役立つ青少年を育てます」と展望（ビジョン）「日本のスカウト運動は、青少年教育の中心的役割を果たしつつ、この運動の目的、使命を達成いたします」は、2002（平成14）年3月に長期戦略計画の一環として策定されました。

そして、2015（平成27）年10月の日本連盟創立100周年を目指した中長期計画の答申では、この使命と展望を確認し、「活動的で自立したスカウトを育てる」ことを目指してきました。

これらを受けて、創立100周年を迎えた2022年度は、年度の使命として「私たちのミッション」を策定し、次のとおり最重点施策、成果目標、最重点事業、最重点施策の具体的事業詳細、その他の事業を展開しました。

1. 最重点施策

スカウト活動をより多くの仲間提供します。

2. 成果目標

2023年3月末日までに、加盟登録人数83,000人以上を目指します。

様々な事業に取り組み、加盟登録人数83,000人以上を目指しましたが、2023年3月31日の加盟登録人数は80,745人で、目標に達成することができませんでしたが、2021年度末の加盟登録人数の-2,215人で、減少率はここ数年で一番少ない状況でした。

3. 最重点事業

次の2事業を今年度の最重点事業として取り組みました。

(1) わくわく自然体験の全国展開

3年目を迎えた「ボーイスカウトとあそぼうワクワク自然体験あそび」は、今年度初めて47都道府県で開催することができ、802会場（中止を含む、事業登録は893会場）、14,168人の一般児童の参加を得ることができました。また、県連盟向け説明会の開催（計3回）、ホームページに申込ページ及び運営情報ページを掲載・更新、組織拡充委員他による会場視察、実施主体に開催補助金の交付を行いました。

なお、次年度は文部科学省の後援を得て開催できることが決定し、2023年3月に県連盟向け説明会を開催（計2回）しました。

(2) 100周年事業の展開

①第18回日本スカウトジャンボリー（18NSJ）開催

第18回日本スカウトジャンボリーは、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、当初計画していた日本全国から一堂に集まるキャンプ大会では、スカウトの安全を確保することは難しいことから、感染症拡大の対策を講じて思う存分スカウトキャンプを行うなど、コロナ禍で停滞している全国の活動が活発になる機会となるよう、一極集中を避けて分散して開催しました。

中央会場とサテライト会場では、2022年月7日～8日間の2日間を含む、5泊6日間のスカ

ウトキャンプを標準として、6県連盟7会場で開催した他、2022年の夏休み期間を「ジャンボリーサマー2022」と位置づけ、県連盟、地区、団、隊などで行うさまざまなキャンププログラムを18NSJとして認定しました。

新型コロナウイルスの急速な感染拡大に伴い、7月中旬以降に中止や内容変更する会場や、代替事業や団・隊キャンプ等に振り替えが行われましたが、中止を含む事前登録では、全国255か所で14,474人の申し込みがありました。

100周年の記念する第18回日本スカウトジャンボリーの県連盟代表として、中央会場でのキャンプ生活とジャンボリー大集会への参加を通じた日本スカウトジャンボリーの経験を各地に持ち帰り、全国大会の意義を共有するため、代表スカウトキャンプを東京連盟の日向野営場とサテライト会場の秩父ミュージックパークで実施し、28県連盟から52人のスカウトが参加しました。

また、全国から集まる代表スカウトと、中央会場・サテライト会場の参加者をオンラインでつなぐことで、参加者等による出し物や各地の活動状況を共有し、第18回日本スカウトジャンボリーの一体感を醸成するため、ライブ配信によるジャンボリー大集会を8月7日に東京都大田区総合体育館にて実施しました。ジャンボリー大集会には、秋篠宮皇嗣同妃両殿下をお迎えし、大集会前には代表スカウトと親しくご懇談する機会を賜りました。

②100周年記念式典

佐野専務理事を委員長として記念式典小委員会、および式典部会（藤本部会長）とレセプション部会（白川部会長）を編成し、各種の祝賀行事の準備をし、下記事業を実施しました。

【オープニングセレモニー／4月10日(日)スカウト会館】

11時30分～12時、水野理事長の挨拶からはじまり、来場者を代表して東京連盟の白川理事長より祝辞をいただきました。佐野100周年記念事業実行委員長より事業の紹介を行ったのち、各部門のスカウトが決意の言葉を述べました。村田総コミッショナーによる弥栄で会を締めくくりました。

【記念式典／11月26日(土)明治神宮会館】

13時～13時50分、天皇皇后両陛下の御臨席のもと、約500人の全国のスカウト関係者と来賓、日本連盟役員が参加しました。御手洗総裁の式辞で始まり、天皇陛下のおことば、岸田内閣総理大臣、永岡文部科学大臣、塩谷ボーイスカウト振興国会議員連盟副会長・事務総長よりご祝辞をいただいた後、岸田内閣総理大臣への「きじ章」贈呈、100周年記念特別表彰を一般財団法人セブン-イレブン記念財団様に贈呈しました。続いて、佐野実行委員長より記念事業の紹介、スカウト代表による宣言、100周年記念ソングボーイスカウト～いま高き峰へ～」を聞き、村田総コミッショナーの弥栄にて式典の幕を閉じました。その後、休憩をはさみ、「100周年を迎えて～日本における今後のスカウト運動～」と題した村田総コミッショナーより記念講演を行いました。

また、天皇皇后両陛下による各ブロック代表スカウト6人との御懇談が行われ、大変な栄誉を得ることができました。

【レセプション／11月26日(土)明治記念館】

17時30分から19時、明治記念館に場所を代え、レセプションが開始されました。ボーイスカウト振興国会議員連盟理事・事務局長の笠浩史様をはじめ関係各方面から多数のご来賓の出席をいただき、久米日本連盟顧問・先達の乾杯により歓談が始まりました。各県連盟のスライドが流れる和やかな雰囲気の中、230人の参加者が100周年を機に、日本スカウト運動の新たなスタートをする決意を分かち合う楽しい宵となりました。

【クロージングセレモニー／3月31日(金)国立オリンピック記念青少年総合センター】

14時より14時45分、秋篠宮皇嗣殿下のご接見を賜った富士スカウト代表16県連盟45人、運営スタッフ、役員等が参加しました。水野理事長の挨拶からはじまり、国立青少年教育振興機構の古川和理事長よりの祝辞、佐野100周年記念事業実行委員長からの事業報告、水野理事長の「記念事業終了宣言」により、一連の記念事業が終了しました。

③100周年キャラバン事業（防災キャラバン）

2016年から継続して開催している全国防災キャラバンを本年は100周年記念事業として実施しました。県連盟からの協力を得て全国58会場で開催し、各会場では「思いやり防災」をテー

マに災害時の多様性への配慮などを体験できるワークショップを展開しました。

また、100周年記念として「わたちのみらい まちのみらい」企画も実施し、参加する子どもたちと一緒に未来の自分たちの街を思い描くプログラムを全国で展開しました。

さらに、「イオン チアーズクラブ」に所属する子どもたちが防災キャラバン会場に会場し、プログラムを体験しました。イオングループとの連携により広く子どもたちへの体験機会の提供に繋げることができました。

【実施概要】

実施期間：2022年度中、通年で実施

実施会場：全国のイオンモール等

共 催：イオン株式会社、イオンモール株式会社

開催会場：下記のとおり

No.	県連盟	会場	開催日	No.	県連盟	会場	開催日
1	北海道連盟	イオンモール札幌平岡	令和4年9月11日	33	三重連盟	イオンモール鈴鹿ベルシティ	令和5年2月12日
2	青森県連盟	イオンモール下田	令和4年10月23日	34	京都連盟	イオン福知山店	令和5年3月19日
3	宮城県連盟	イオンモール富谷店	令和4年9月4日	35		イオンモール京都桂川	令和5年2月26日
4	福島連盟	イオンモールいわき小名浜店	令和4年9月25日	36	兵庫連盟	イオンモール姫路リバーシティ	令和4年9月24日
5	茨城県連盟	イオンモール水戸内原	令和4年12月17日	37		イオンモール樺原	令和4年10月1日～2日
6	栃木県連盟	イオンモール佐野新都心	令和4年6月11日	38	奈良県連盟	イオンモール大和郡山	令和4年10月15日～16日
7	群馬連盟	イオンモール高崎	令和5年3月4日	39		イオンモール奈良登美ヶ丘	令和4年10月22日～23日
8		イオンモール太田	令和4年11月13日	40	和歌山連盟	イオンモール和歌山	令和5年1月14日
9	埼玉県連盟	川口グリーンシティ	令和4年11月3日	41		イオン新宮店	令和5年3月5日
10		イオンモール浦和美園	令和4年11月13日	42	大阪連盟	イオン藤井寺ショッピングセンター	令和4年6月12日
11		イオンモール与野	令和4年9月11日	43		イオンモール茨木	令和4年9月18日
12		イオンモール上尾	令和4年10月23日	44		イオンモール鶴見緑地	令和4年11月13日
13		イオンモール春日部	令和4年12月10日	45		イオンモール日根野	令和5年1月22日
14		越谷イオンレイクタウン“森”	令和4年12月4日	46	鳥取連盟	イオンモール日吉津	令和4年12月4日
15	千葉県連盟	イオンモール幕張新都心	令和4年6月12日	47	島根連盟	イオンモール出雲	令和4年9月10日
16		イオンモール成田	令和4年11月6日	48		イオン松江ショッピングセンター	令和4年11月20日
17		イオンモール木更津	令和4年12月18日	49	岡山連盟	イオンモール倉敷	令和4年11月23日
18		イオンモール八千代緑が丘	令和4年11月5日	50	広島県連盟	イオンモール広島祇園店	令和4年5月28日
19		イオンモール柏	令和4年11月23日	51	徳島連盟	イオンモール徳島	令和5年1月29日
20		イオンモール船橋	令和4年11月23日	52	香川連盟	イオンモール綾川	令和4年10月2日
21	神奈川連盟	イオンモール大和	令和4年9月11日	53	福岡県連盟	イオンモール八幡東	令和5年2月5日
22	富山連盟	イオンモール高岡	令和4年10月30日	54		イオンモール香椎浜	令和4年10月15日～16日
23	石川連盟	イオンモール白山	令和4年8月28日	55	熊本県連盟	イオンモール熊本	令和5年2月23日
24	福井連盟	福井連盟独自開催（福井市清水町東小学校）	令和4年10月15日	56	大分県連盟	イオン挾間店	令和4年9月11日
25	岐阜県連盟	イオンモール各務原	令和4年9月11日	57	鹿児島県連盟	イオンモール鹿児島	令和4年12月4日
26		イオンモール大垣	令和4年9月11日	58	沖縄連盟	イオン南風原店	令和4年9月11日
27	愛知連盟	イオンモール新瑞橋	令和5年2月23日				
28		イオン春日井ショッピングセンター	令和4年10月10日				
29		イオンモール扶桑	令和4年12月4日				
30		イオンモール長久手	令和5年1月22日				
31		イオンモール岡崎	令和4年11月2日～3日				
32		イオンモール木曾川	令和5年1月29日				

④記念史編纂事業

ー日本ボーイスカウト運動 100年史～上巻の発行

ボーイスカウト運動の創始から、日本における 100 年のボーイスカウト運動史として『より良い世界の創造を目指して～日本ボーイスカウト運動 100 年史～（上）・（下）』を企画しました。より多くの人に読んでいただけるよう、持ち運びできる読み物として、100 年間で 1 冊にまとめるのは困難なので、上下巻の 2 分冊としました。

上巻の編纂にあたり、既刊『日本ボーイスカウト運動史（50 年史）』を骨格としましたが、取り上げる項目はできるだけ現在の、そして未来のスカウティングに参考となるものにと心掛けました。肉付けとする内容は改めて調査を行い記述に加え、ボーイスカウト運動の世界的創始から日本への伝播、50 周年度までの発展を読みやすくまとめました。

販売については、完全予約制として 2021 年 10 月下旬から 2022 年 2 月末までに 2 千部を超える予約を受け付け、贈呈分等を含めて 2,500 部を製作しました。

⑤ プラごみバスターズ大作戦展開

スカウト運動が地域社会に根差した実践活動であることを広く社会に周知することを目的に、環境保全や環境美化をはじめとしたさまざまな活動を「スカウトの日」として全国各地で実施しています。2022年、日本連盟は創立100周年を迎え、この記念の年に世界的な環境課題の一つである海洋問題に取り組む新たな「スカウトの日」のテーマを設定し、全国一斉のプログラム「プラごみバスターズ大作戦」を実践しました。



【実施概要】

実施期間：2022年7月11日(月)～11月7日(月)

集中実施日：2022年9月19日(月・祝日)スカウトの日

主催：公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

協賛：一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協力：株式会社セブン-イレブン・ジャパン

【スケジュール】

- 4月 テスト実施（複数団による教材のテストおよびフィードバックによる改善）
- 5月28日 特設サイトオープン（<https://plagomi.scout.or.jp/>）
全国大会（プロジェクトの全国披露、ごみ拾いSNS「ピリカ」の紹介）
- 7月10日 キックオフイベント・滋賀セブンの森での活動実施
- 8月 第18回日本スカウトジャンボリー（SDGsプログラムとしての取り組み）
- 9月19日 スカウトの日にて、全国1,800団のスカウト・指導者が活動
- 9月25日 大作戦・東京会場での活動（荒川河川敷）
- 10月16日 大作戦・山口会場での活動（周防大島町）
- 10月23日 大作戦・滋賀会場での活動（琵琶湖東岸）
- 12月7～9日 環境展示会「エコプロ2022」での活動報告

【プロジェクト概要】

◎教育コンテンツの開発・提供

スカウト活動や普段の生活の中で気づきを得て学びにつなげられるよう、SDGsを交えた教育コンテンツとして、環境教育プログラム「Earth Tribe」と連携させた進歩・進級につながるヒントを掲載したコンテンツ冊子を作成しました。事前レクチャーとして活用できるカードやワークシート、展開方法を伝えるための動画コンテンツなどを作成し、各団で環境活動を行う前の事前準備にて活用しました。

◎全国での清掃活動

毎年のスカウトの日で実施する環境美化運動のテーマを「プラごみバスターズ大作戦」として、プラスチックごみに絞った活動を推奨しました。地域や他団体とも協力しながら無理なく継続できるようICTツールを活用（ごみ拾いSNS「ピリカ」）し、集めた放置ごみのデータ集約と取り組みの見える化に挑戦しました。

◎アップサイクルの取り組み

捨てられるはずだった廃棄物や不用品を、新しい製品に生まれ変わらせることを「アップサイクル」と言い、今回のプロジェクトではペットボトルキャップを使った「SDGs バッジ」と「ペットボトルキャップ回収ボックス」に、山口会場で回収した牡蠣パイプを使った「買い物かご」へのアップサイクルを行いました。

【制作物】

◎配布品

- ・プラごみバスターズ大作戦 のぼり旗（2,000枚） 全国の加盟団に配布
- ・ごみ拾い用オリジナルトング（5,000本） キャップ回収協力団に配布
- ・プラごみバスターズ大作戦 缶バッジ（1,200個） 大作戦実施会場参加者に配布

◎アップサイクル品

- ・ペットボトルキャップSDGs バッジ（5万個） 全国のスカウトへ配布
- ・ペットボトルキャップ回収ボックス（20個） 協力団より選定して配布
- ・ペットボトルキャップデザインチェア（3個） 山口会場の協力施設への設置
- ・牡蠣パイプ買い物かご（400個） 山口会場の協力施設での活用

⑥ 100周年募金事業（未来の子どもたちの基金醸成、ミュージアム事業等）

ひとり親家庭の支援と国際交流の支援を目的とした「未来の子どもたち基金」、ならびにデジタルミュージアムの設立を目的として募金事業を行い、目標金額1億円として広く寄付を募りました。その中では、経済団体連合会の役員企業に協力を依頼し、目標に向けた大きな支援となりました。個人からのご寄付に対しては、金額に応じて、感謝の意を込めた記念記章および記念品（ベルトポーチとラゲッジタグ）を贈呈しました。

また、これにあわせて、日本連盟として初めてのクラウドファンディングに挑戦し、目標330万円に対して約140%となる4,649,000円のご厚志を集めることができました。

さらに、一人でも多くの方にこの募金事業に参画してもらえるようボーイスカウトエンタープライズではチャリティーつきのネッカチーフを販売し、売り上げの一部が本募金への寄付につながるものとなりました。

100周年記念募金、クラウドファンディング、チャリティーつきチーフリングのそれぞれをあわせて、95,254,359円の支援になりました。

目標まであとひといきであることから、4月末まで募金受付を期間延長しました。

1) 100周年記念募金特設サイト

<https://100th.scout.or.jp/product/fundraising/>

2) クラウドファンディング関連

https://readyfor.jp/projects/100th_scout

支援金額：4,649,000円（目標額330万円に対して達成率141%）

ページ訪問者5627人 支援者：314人。重複を除くと293人

3) オンラインミーティング「スカウトの先輩に聴く」

221123 第1回ゲスト稲葉基高さん(空飛ぶ捜索医療団ARROWSプロジェクトリーダー)

221215 第2回ゲスト加賀屋克美さん(ディズニー博士)

221228 第3回ゲスト山田泰久さん(日本非営利組織評価センター)

230113 第4回ゲスト瀬上倫弘さん(国連WFP協会)

230120 第5回ゲスト石塚元章さん(CBC特別解説委員)

230126 第6回ゲスト青木康太郎さん(國學院大學准教授)

230206 第7回ゲスト田村圭吾さん(料亭萬重若主人)

230213 第8回ゲスト松田美歌さん(京都市教職員)

230215 第9回ゲスト宮下真美さん(スカウト保護者)

4) カウントダウンイベントマラソン

230215 水野正人理事長を始め、2/11から最終日の2/21まで毎日実施

5) 「私たちの思い」掲載

11人の理事やコミッショナー、県連盟理事長などからのメッセージ掲載

6) 「応援メッセージ」掲載

チャンス・フォー・チルドレン代表理事 今井悠介さん

日本ファンドレイジング協会マネージングディレクター 大石俊輔さん

⑦ デジタルミュージアム建設

スカウトミュージアム建設小委員会（松平委員長）のもとの目録作成作業チームにより、4月、6月、7月、9月に那須野営場にある所蔵品の整理、写真撮影などを行いました。

4. 最重点施策の取り組み

(1) スカウト活動を活性化するための事業

① より魅力あるプログラムを提供します。

現在社会が必要としているボーイスカウト教育手段確認と推進により、より魅力あるプログラムを提供するため、部門ごとのタスクチームを設置して、部門プログラムの見直しやプログラムのヒント等を検討し、新たな資料（『保護者のためのカブブック』）の発行やプログラムに関する説明会（「BSプログラムヒント集」「スクラップブック」）、ローバースカウト年代に向けた公開トークセッション等を実施しました。

- ② 地域社会認知の向上を目指す事業を展開します。
- 防災キャラバン、SDGs活動（プラごみバスターズ）、難民支援衣料回収プロジェクト、こども体験フォーラムなど、外部団体や企業との協働活動によるボーイスカウトの地域社会における認知の向上を目指す事業を展開し、各地での知名度向上に寄与しただけでなく、青少年教育に関わる各種の団体との連携を強化することができました。
- 詳細は「3. 最重点事業 2) 100周年事業の展開 ③100周年キャラバン事業（防災キャラバン）⑤プラごみバスターズ大作戦展開」、「5. その他事業（22）難民支援衣料回収プロジェクト」をご参照ください。
- ③ 情報伝達改革を推進します。
- 加盟員、保護者が知りたい情報をより早く、スムーズに伝達できる情報伝達改革を推進のため、団情報ページの改良、SNSの効果的運用に取組みました。各種のSNSのフォロワーは増大し、特にInstagram（インスタグラム）では年度当初比で1.5倍にまで増加しました。また、日本連盟Webサイトの全面的リニューアルに向けた準備を進めました。
- なお、各県連盟からの要望に応じて、各団などが会員獲得に役立てることができる三つ折りのリーフレットを今年度も作成し、配布いたしました。
- ④ 中途退団抑止を推進します。
- 組織拡充に関する県連盟支援事業（組織活性化戦略セミナーを含む）を通じて、各県連盟に応じた支援を行うことにより、新規加盟員の増加と中途退団抑止を図りました。
- また、組織拡充に関する調査・研究を開始し、中間報告を取りまとめた。次年度、全団調査結果の分析（継続）、Sランク団の活動ヒアリング（新規）を行う予定にしています。
- ⑤ 組織の意思決定への若者、女性の参画を推進します。
- 理事会に青年と女性の登用、評議員会にも女性を登用しました。また常設委員会にも若者の参画を公募し、AIS委員会、組織拡充委員会に、それぞれ人の若者が参画することになりました。
- ⑥ ユース年代への情報・参画機会の提供を推進します。
- RS隊および青年の参画に関する規程改正提案教育規程の改正を行い、また「スカウト・青年の参画方針」を採択し、ユース年代への情報・参画機会の提供を推進しました。
- ⑦ 必要なスカウトに対し、ともに進もう（ひとり親家庭等応援）助成プログラム「トモスス」を推進します。
- 経済的な格差が体験機会の格差に繋がっている、いわゆる「体験格差」が国内において社会問題化し、本助成の必要性がますます認識されることとなりました。今年度は166家庭・213名の助成を行いました。これの原資となるもったいない寄付や使途指定寄付など合計で400万円を超える支援を得ることができたことにより上記の人数にある子どもたちにボーイスカウト活動を通して体験活動の機会を提供することができました。
- ⑧ 安心な共済制度運用と安全教育（保全と予防）を推進します。
- 「共済事業」の運用については、共済事業報告書が別途発行いたしますが、概要は以下の通りです。
- ・2014（平成26）年4月より「PTA・青少年教育団体共済法」を根拠法とする認可共済『そなえよつねに共済』を開始し9年目を迎えました。
 - ・2022（令和4）年3月末現在、88,953人（内、非加盟員6,282人を含む）の申込を受付して運用しました。例年同様、加入総人数の92%が4月に加入している。前年度と比較すると加盟員の減少傾向と相俟って、2,586人（2,8%）の減員となりました。
 - ・なお、非加盟員の加入者数は毎年増加傾向にある一方、加盟員含めた全体の加入者数はここ数年間対前年度5%前後の減少傾向でしたが、減少傾向に少し歯止めがかかった年となりました。
 - ・事故状況については、新型コロナの感染防止策をとりながらの活動が再開されたことによ

り、受理件数は181件と昨年度の93件に比べて約200%と大幅な増加となりましたが、コロナ禍前の約400件と比べるとまだ減少傾向にあり、支払額では約68%減となっております。

- ・ 共済金の給付は「安全普及啓発活動」に対して次の事業を実施しました。

- －安全促進フォーラムの開催
- －セーフ・フロム・ハーム推進フォーラムの開催
- －スカウティング誌掲載記事電子化
- －セーフ・フロム・ハームEラーニングシステム改修
- －ガイドラインの改訂版作成と配付（次年度への申し送り）

上記事業の詳細は、「（2）日本連盟組織の強化と透明化施策実行④日本連盟全体でのSfH（セーフ・フロム・ハーム）とガバナンス強化を推進します。」の項をご参照ください。

- ⑨ 隊指導者の必要としている支援を強化します。

指導者訓練の実施が困難な県連盟への支援を強化するため、全国の現状を調査するためのアンケートを実施しました。今後は、アンケート結果を踏まえて各県連盟を支援していきます。

- ⑩ 団組織の強化推進を支援します。

【4. 最重点施策の取り組み1）④と共通】

- ⑪ 新登録制度を検討、構築します。

今年度4月1日付けで定款を改定し、2号会員のあり方を整理しました。次年度は、令和6年度の会員登録に向けての準備を進めます。

- ⑫ スカウトOBの活動への参画を推進します。

100周年事業に関連した「スカウトサポーター」を募集し、23名のサポーターに認定状をお送りして、日本連盟Webサイトなどを通じて、スカウト運動がいかに幅広い方々から応援されているかを伝えることにつながりました。しかし、目標とする数には遠く、次年度以降も継続して実施することとしました。

また、資金醸成小委員会との協働で実施したクラウドファンディングでは、目標の1.4倍の篤志を集めることが出来た中で、多くのスカウトOBからの賛同をいただくことができ、今後につなげる輪を作ることができました。

- ⑬ 国際交流活動の魅力周知と参加を促進します。

今年度は、2023年度の第25回世界スカウトジャンボリー（25WSJ）派遣準備を通じて、国際交流活動の魅力を発信しました。その結果、1600人を超える応募があり、ここ数年の新型コロナウイルスの影響による国際交流の停滞から、新たな展開をみせています。

- ⑭ 海外の各国スカウト連盟（NSO）、アジア太平洋地域（APR）、世界スカウト機構（WOSM）との協力を強化します。

2022年度に実施された国際会議・コース等は、2020年度からの新型コロナウイルス（COVID-19）の影響により多くがオンラインで開催されましたが、外国での対面会議も再開され、日本連盟から71件の参加がありました。これは、前年度の62件から増加しています。なお、第11回APRサミットは2024年4月、第43回世界スカウト会議は2024年8月にエジプト、第28回APRスカウト会議は2025年10月に台湾での開催が予定され、2022年度と2023年度は地域と世界の会議は予定されていません。

- （2）日本連盟組織の強化と透明化施策実行

今年度からの日本連盟組織変更の効果を出すため、以下の事項を集中的に実行しました。

- ① 日本連盟の意思決定プロセスの見える化を推進します。

- ② 事務局機能の効率化と人財育成を推進します。
理事による全事務局職員に対して、日本連盟の組織と事業計画等、日本連盟の資産と会計、職員としての権利と義務等の研修を行い、また、理事による面談を念2回行った。
- ③ 効率の良い会議への改革を推進します。
その会議の必要アウトプットの明確化（何のための会議か）
資料、議事録作成フォーマットの標準化（参加者がわかり易い資料）
利益相反メンバーの存在確認プロセスの明確化
- ④ 日本連盟全体でのS f H（セーフ・フロム・ハーム）とガバナンス強化を推進します。
これまでのS f Hに関しては、S f H・安全委員会が担ってきましたが、今年度は、発展的に改組し、法務担当理事を委員長とし、各常設委員会構成員から選出された担当委員の計6人でS f H推進協議会として編成し、9回のオンライン会議を開催し、日本連盟全体で以下の事業を実施しました。
- 1)セーフ・フロム・ハーム推進フォーラムの開催
安全普及啓発活動事業の公募事業として、次の5会場で開催しました。
- 【第1回：愛知会場】**
日 時：令和4年12月4日（日）10時～15時05分
会 場：名古屋都市センター会議室
参 加 者：愛知連盟指導者17人
スタッフ：日本連盟 水戸守 SfH 推進協議会委員長、他2人
- 【第2回：千葉会場】**
日 時：令和5年1月22日（日）10時～15時15分
会 場：佐倉市中央公民館
参 加 者：千葉連盟指導者34人
スタッフ：日本連盟 水戸守 SfH 推進協議会委員長、他2人
- 【第3回：福井会場】**
日 時：令和5年1月29日（日）10時～15時15分
会 場：福井県生活学習館
参 加 者：福井連盟指導者24人
スタッフ：日本連盟 水戸守 SfH 推進協議会委員長、他2人
- 【第4回：大阪会場】**
日 時：令和5年2月23日（木・祝）10時～15時15分
会 場：大阪・アネックスパル法円坂
参 加 者：大阪18人、京都1人、奈良6人 各県連盟指導者25人
スタッフ：日本連盟 水戸守 SfH 推進協議会委員長、他3人
- 【第5回：福岡会場】**
日 時：令和5年2月26日（日）10時～15時15分
会 場：福岡県立総合プール
参 加 者：福岡12人、佐賀4人、大分2人、宮崎1人 各県連盟指導者計19人
スタッフ：日本連盟 水戸守 SfH 推進協議会委員長、他2人
- 2)安全促進フォーラムの開催
2022年度安全普及啓発活動事業の公募事業として、次の3会場で開催しました。
- 【第1回：大阪会場】**
日 時：2023年1月15日（日）10時～16時
会 場：大阪・アネックスパル法円坂
参 加 者：大阪連盟指導者18人・兵庫連盟指導者1人 計19人
スタッフ：日本連盟水戸守 SFH 推進協議会委員長他4人、大阪連盟 前田栄子理事長他4人
- 【第2回：佐賀会場】**
日 時：2023年1月22日（日）9時30分～15時45分
会 場：佐賀・佐賀市青少年センター

参加者：佐賀県連盟指導者28人・長崎県連盟指導者2人

スタッフ：日本連盟 戸高共済委員会委員長、他3人、佐賀県連盟 平田事務局長 他2人

【第3回：福岡会場】

日時：2023年3月19日（日）10時～16時

会場：福岡・アクション福岡

参加者：福岡県連盟指導者21人

スタッフ：日本連盟 宇山SFH推進協議会委員、他4人

3)登録前研修の改定

全指導者（RSを含む）が、登録前研修としてセーフ・フロム・ハームを学ぶことにより安心安全な活動を提供することができ質の高い活動とするため、毎回内容を見直しております。

今回は、昨年度まで新規と継続の2区分で実施していました区分を1つに統合して、セーフ・フロム・ハームに取り組むということ、指導者の心構え、バディルールを焦点にした設問とし、昨年と同様研修免除の要件を明確に示しました。

そして、これらをEラーニングまたはテキスト版として取り組めるようにホームページを改修しました。

4)野外活動における安心安全講座合本データ提供

スカウティング誌に連載している「野外活動における安心安全講座」の2021年度分の記事を取りまとめた冊子を日本連盟ホームページに掲載しました。これにより、安全に関する情報がひとまとまりになり、スカウト運動だけでなく広く青少年活動に携わる指導者に対して、各種研修・会議の資料や活動計画書、安全計画書を作成する際の資料としての活用や安全な活動への意識付けを行いました。

5)SFHガイドラインの改訂

正餐（酒宴）での制服着用の可否や文言の整理・精査等の改訂の必要を認識し検討を開始したが、改訂までたどり着けなかったため、次年度への継続案件としました。

6)県連盟対応ガイドラインの改訂

全面的な改定は行わずに、匿名の対応、第三者委員会と理事会の関係性、理事会への報告等の点を補足していくこととし、具体的改訂は次年度へ継続案件としました。

7)セーフ・フロム・ハーム相談窓口

本年度の日本連盟事務局への相談件数は22件ありました。県連盟の協力を得て是正、再発の防止に努めました。また相談案件を基にセーフ・フロム・ハーム推進の施策に反映させてスカウト運動の健全な発展を図りました。

⑤ 若者・女性の組織意思決定への参画を推進します。

(1) -⑤と共通

⑥ 維持会員、新たな形での協力者の更なる確保を推進します。

(1) -⑩と共通（新登録制度への反映）

⑦ WEB会議等の活用によるコミュニケーション活性化を推進します。

多くの会議体でオンライン開催とし、またペーパーレスで行うことを推進しました。

⑧ 担当業務別の責任、権限の理解促進研修を実施します。

3月に理事により、日本連盟事務局職員への研修を行いました。

(3) 101年目からの中長期計画を2022年度中に策定、周知

地域と共に歩み、社会課題の解決に貢献するスカウティングを目指して、第3次中長期計画（2023年～2032年）が3月11日理事会において承認され、日本連盟ホームページやスカウティング誌2023年5月号に掲載し周知します。

中長期計画の概要は以下の通りです。

【2032ビジョン-10年後のスカウティングの姿】

様々な団体と繋がっている団・地区・県連盟・日本連盟（以下、全ての組織という）が国際社会や地域から必要とされる存在となっており、「より良い世界をつくる」ことに貢献する青

少年を一人でも多く育てている。また、全ての組織で、その担い手として様々な人材が活躍している。

10年後、2032年度の日本のスカウティングのあるべき姿を上記のように位置付け、このビジョンを達成するために「4つの基本施策」-「10の施策」-「34の重点事業」を定めました。

【4つの基本施策】

＜施策Ⅰ＞様々な団体等と連携し地域に根差したスカウティング

様々な団体等と連携を進め、相互に補完して地域に根差すスカウティングを目指します。さらに、私たちが「地域のために何ができるか」を常に考え、地域に貢献することで、それぞれの地域におけるスカウティングの価値を高める取り組みを進めます。

＜施策Ⅱ＞全ての人に開かれたスカウティング

新規加盟員を増やす取り組みやこの運動のすそ野を広げるために「特色のある団」の設置の研究、実証を進めます。また、中途退団抑止施策としてのスカウトの保護者へ焦点を当てた施策のほか、スカウトはもちろんスカウティングを支える成人を増やす取り組みを進めます。

＜施策Ⅲ＞青少年の成長・社会的課題の解決に貢献するスカウティング

スカウトが幸福な人生を歩むために、地域や社会、身近な仲間から必要とされることで自己有用感を高め、スカウトスキルとは野外活動に必要なもののみならず、自立して生きていくために必要なものと位置付け、どの部門においても地域や生活に密着したプログラムを展開します。また、(仮称)「日本青少年プログラム方針」を策定し、プログラム開発を進めます。

＜施策Ⅳ＞強固な財政基盤を持ち効率的な事業執行を行う日本連盟

良質なスカウティングをスカウトに提供するため、加盟登録料に依存しない、外部資金を獲得するための取り組みを強化します。また、時代に即したICTの活用により必要な情報が届けられるよう情報提供のあり方を見直すほか、ジェンダーバランス、青少年の意思決定プロセスへの参画などにも引き続き取り組みます。

5. その他の事業

(1) 第24回全国スカウトフォーラムの開催

第1回シニアースカウトフォーラムで『より良い社会を目指して、スカウトは何をすべきか』について討議されたことから、「スカウトの日」は始まりました。100周年を迎えるこの年に、私たちが継続して取り組む奉仕や地域貢献の形について考え、これから始まる新しい100年のスカウト奉仕の在り方について考えることをフォーラムの目的として開催しました。

横浜市政策局共創推進室の関氏に事前集会以での基調講演とフォーラム当日のグループワークの展開をお願いし、県フォーラムの発表を経て分科会にて討議を深め、各グループを代表して議長団を選出しました。

分科会で話し合ってきた各グループの内容をもとに、フォーラム議長団が中心となって作成した採択事項の原案をまとめた後に、全体会にて代表スカウト全員の意見が反映されたフォーラム宣言の採択を行いました。

閉会式では、フォーラム議長より、川瀬プログラムコミッショナーへ宣言文を提出し、代表スカウトが主体となり、本フォーラムの報告の場としてアフターフォーラムを開催や、アクションプランへの取り組みへ展開することを約束しました。

【事業の内容】

テーマ：「新しい100年に向けてスカウトは何をすべきか」

期 間：事前集会（オンライン） 12月17日（土）17:00～19:30

フォーラム 12月24日（土）～26日（月・祝）

会 場：神奈川・川崎市青少年の家

参加者：ボーイスカウト都道府県連盟代表 41 県連盟 41 人

スタッフ 全国スカウトフォーラム運営委員会 10 人、プログラム委員会 5 人

協 力：関口 昌幸 氏（横浜市政策局共創推進課担当係長）

第24回全国スカウトフォーラム フォーラム宣言
「時代とともに変化する課題」を解決するうえで、活動の目的を明確化しよう

(2) 全国大会開催

日本連盟創立 100 周年の記念の年に、3 年ぶりの実地開催となる全国大会が兵庫県姫路市の「アクリエひめじ」で 5 月 28 日（土）、29 日（日）に 962 人の参加がありました。

開会式は、水野理事長、御手洗総裁の挨拶の後、清元姫路市長、末松文部科学大臣、逢沢 BS 振興国会議員連盟会長よりご祝辞、ボーイスカウト・アンバサダーの宮川大輔さん（タレント）、岡田武史さん（元サッカー日本代表監督）から、スカウトたちへ 100 周年のお祝いと激励のビデオメッセージをいただきました。

その後、表彰式、各種の関連会議、全国スカウト教育会議（テーマ集会）等が行われました。交歓会は中止となったものの、スカウティングエキスポやステージ発表も行い、多くの方々が参加しました。

また、開会式～表彰式の模様を YouTube にて LIVE 配信を行い、再生回数は約 7,000 回となり、多くの加盟員らに大会の意義を伝えることができました。（5-(33)電子媒体（インターネット）参照）

(3) 富士特別野営開催

3 年間に渡る構想を経て、本事業開始後初めて日本連盟の施設を離れ、滋賀県・琵琶湖周辺で富士特別野営 2022 を開催しました。

3～4 人の小グループによる編成で、2泊3日間の山岳移動キャンプと、水資源保護活動に触れつつ、自作の筏による琵琶湖の湖上移動といった冒険的なプログラムの中で仲間との絆を深めつつ、高度な技能を発揮しました。

なお、大会中に複数のスタッフがコロナウイルスに罹患したため、当初の予定から 1 日短縮することとしました。

【事業の内容】

開催日：令和 4 年 8 月 14 日（土）～19 日（金）5 泊 6 日

場 所：滋賀県 高島トレイル・琵琶湖周辺

参加者：スカウト 15 人、指導者 24 人、ローバースカウト 13 人、役員 1 人 計 53 人

(4) SGD s 協働事業の全国展開

3. 最重点事業 (2) 100 周年事業の展開 ⑤ プラごみバスターズ大作戦の項をご参照ください。

(5) 防災キャラバンの全国展開（100 周年事業）

3. 最重点事業 (2) 100 周年事業の展開 ③ 100 周年キャラバン事業（防災キャラバンの項をご参照ください）。

(6) 海外派遣の実施

2022 年度は、新型コロナウイルス（COVID-19）等の影響により、当初予定されていた 6 事業のうち 4 事業が中止され、2 事業 3 人の派遣を実施しました。

① カンダーシュテーク夏季野営スタッフ派遣

奉仕期間：6 月 5 日（日）～9 月 2 日（金）90 日間

場 所：スイス・カンダーシュテーク国際スカウトセンターター

派 遣 員：西野ちなせ（愛知連盟名古屋第 101 団ローバースカウト）

② スカウト特別海外派遣（霞会館補助事業）

1) 派遣員：成澤 椿（東京連盟目黒第 1 団ローバースカウト）

期 間：8 月 19 日（金）～9 月 7 日（水）20 日間

派遣先：カナダ（ケベックシティ、トロント、カルガリー、バンクーバー他）

テーマ：「人が守り受け継いだ自然と文化」～逆境をチャンスに変えるためのカナダ派遣～

2) 派遣員：森下結友（兵庫連盟西宮第 13 団ローバースカウト）

期 間：2 月 12 日（日）～3 月 2 日（木）19 日間

派遣先：オーストラリア（シドニー、キャンベラ他）

テーマ：Scouts for SDGs 2nd edition ～全生物が共棲可能な環境づくりに向けて～

③新型コロナウイルスの影響・その他の理由により中止した事業

- 1) スカウト・オーストラリア短期留学（学習旅行）派遣
- 2) 第15回韓国ジャンボリー（25WSJプレ大会）派遣
- 3) 第32回アジア太平洋地域スカウトジャンボリー（バングラデシュ）派遣
- 4) CJK（ローバー）プロジェクト派遣

(7) 指導者訓練の開催

新型コロナウイルスの感染拡大に配慮しながら、各種指導者訓練コースを開設した。開催状況は下記のとおりです。

ボーイスカウト講習会（218回、3532人）

- ・動画の活用やグループワークの活用など、体験を中心とした内容で実施された。
- ・全国で開設し、ボーイスカウト運動の普及に努めた。

ウッドバッジ研修所「スカウトコース」（33コース、657人）

- ・参加者の研修効果上がるよう効果的な支援を行い、セッションの運営に関しては、コースの開設地域に応じた工夫がなされ、参加者の理解を深める努力が行われた。

ウッドバッジ研修所「課程別研修」（のべ124回、801人）

- ・青少年の年代別の特性や各部門の隊運営や進歩制度の特徴、プログラムの立案について学ぶ内容となっている。
- ・課程別研修を履修することで「隊指導者基礎訓練課程」の修了となり、上級訓練へとモチベーションを維持し、さらに自己研鑽に励むことが期待される。

団委員研修所（13コース、176人）

- ・団委員の実務を中心とした研修内容であることから、団の組織と運営の概要について理解し、団委員会、団会議の機能と連携や各隊活動への支援、団委員会の業務について理解する内容となっている。セッションの運営については、参加者の状況や地域差により所長の適切な対応が行われている。

コミッショナーベーシックトレーニング（9コース、78人）

- ・コミッショナーとして、スカウト運動に対する理解を深め、地区または県連盟内の教育指導に携わる指導者を主導する能力を身につけることにより、自らの責務を理解し、管理能力を高め、スカウト運動の基準を維持し、その純正な発展をはかることをねらいとして実施した。

コミッショナー任務別研修 地区コミッショナー課程（12コース、131人）

- ・地区コミッショナーとして、すべての部門の教育法を理解し、指導者およびスカウトに適切な指導や助言等の支援ができることをねらいとして実施した。

ウッドバッジ実修所（7コース、116人）

- ・活発なプログラムを展開するために、隊指導者に活動的なプログラム体験の機会を増やすことをねらいの一つとして、隊指導者上級訓練を実施した。

団委員実修所（2コース、26人）

- ・団の組織および団委員（長）の任務について深く理解し、団委員（長）として正常かつ発展的に団を運営していくための実務を理解し、自団の問題解決や将来に向かっての施策を推進する能力を高める内容となっている。

ウッドクラフトコース（1コース、16人）

- ・長期野営を通じて、自然の中で生活する技能（ウッドクラフト）からスカウティングの本質的な楽しさを学び、自らのスカウトスキルを活用し、新たなプログラムを研究・考察ができることを目的として開設した。

リーダーートレーナーコース（1コース、17人）

- ・本コースは、参加者が日本連盟の訓練方針と新指導者訓練体系を理解し、各種の指導者訓練、特に訓練の企画および実施をするための技能を修得することを目的として開設した。

副リーダーートレーナーコース（1コース、19人）

- ・本コースは、参加者が日本連盟の訓練方針と新指導者訓練体系を理解し、各種の指導者訓練、特に導入訓練課程および基礎訓練課程を行う技能を修得することを目的として開設した。

コミッショナー任務別研修 県コミッショナー課程（1コース、40人）

- ・県コミッショナーとして、その職務を理解した上で、県コミッショナーとしての方針をたて、各種指導者訓練の充実を図り、各地区コミッショナーへ適切な指導や助言ができることをねらいとして開設した。

（8）各種セミナーの開催

①ローバーアカデミーの実施

ローバー部門の教育制度の見直しを行う中で、ローバースカウトへのミッションの発意を促し実行を支援するために、トークセッションを開催しました。

【第1回公開トークセッション】

日 時：10月28日(金) 19:00～20:30

場 所：東京・東京工業大学蔵前会館およびオンライン

登壇者：東京工業大学教授・火山学者 野上健治氏

参加者：会場参加67人(スタッフ含む)、オンライン参加者約260人(他、同時閲覧者多数有り)

テーマ：「災害発生状況とスカウトが防災・減災でできること、果たしてきたこと」

内 容：多発する災害の仕組みと今後の予測、災害発生にそなえるべきこと、災害発生時に、スカウトが今までしてきたこと、できること、すべきこと

【第2回公開トークセッション】

日 時：1月31日(火) 19:00～20:30

場 所：東京・東京大学情報学環・福武ホール福武ラーニングシアターおよびオンライン

登壇者：東京大学 大学院工学系研究科 システム創成学専攻 講師 早矢仕 晃章 氏、
京都連盟・笹渕 賢人 氏

参加者：会場参加者47人(スタッフ含む)、オンライン参加者約105人(他、同時閲覧者多数有り)

テーマ：「データ社会とスカウティング」集める・繋げる・未来を創る～見えないものを「見える化」するデータのカ～

内 容：データのカをスカウティング、そして社会に役立てる方法について

②ボーイスカウト部門プログラムヒント集活用説明会

日 時：3月19日(日) 19:00～20:00

参加者：YouTube ライブ配信 752回視聴

③「お宝発見！ボクのスクラップブック！！」カブスカウト部門プログラムに関するセミナー

日 時：3月26日(日) 19:00～20:30

参加者：YouTube ライブ配信 629回視聴

（9）県連盟への情報伝達と意見聴取の為の会議開催

下記の通り、全国事務局長会議および県連盟代表者会議を開催し、情報伝達と意見徴収を行いました。

①全国事務局長会議の開催

ボーイスカウト日本連盟創立100周年記念式典・レセプションの翌日に全国の事務局長が参集して開催しました。18NSJ、100周年記念事業、25WSJ、加盟登録新システム、コミッショナーの取り組み、維持会員、共済事業、SFH、組織拡充、広報、青少年プログラム、指導者養成関連事業、国際交流事業、BS エンタープライズ等々についての説明・報告と意見交換を行いました。

日 時：2022年11月27日(土) 10:00～14:35

場 所：東京・日本青年館ホテル

出 席：43県連盟より事務局長43人(代理含む)、日本連盟役員4人、参席3人

議 題：日本連盟報告（説明）、総コミッショナーの取り組み、事務局からの連絡1（エンタープライズ報告）、事務局からの連絡2（運営系報告）、事務局からの連絡3（委員会系報告）、事務局長会議のまとめ・質疑応答・情報交換 他

②第1回県連盟代表者会議

日 程：2022年5月28日（土） 15：15～17：15

場 所：兵庫・アクリエひめじ

出席者：45都道府県連盟理事長・事務局長または代理 80人

日本連盟御手洗総裁、奥島総長、理事長 ほか理事6人

内 容：2021年度事業報告および決算、2022年度事業計画および予算、日本連盟創立100周年記念事業、第18回日本スカウトジャンボリー、第25回世界スカウトジャンボリーについて、新登録制度と登録システム、2022年度維持会費の都道府県連盟への協力依頼 他

③第2回県連盟代表者会議

日 時：2023年1月28日（土） 13：30～16：30

場 所：東京・明治記念館

出席者：41県連盟理事長41人（代理者含む）、参席1人

水野日本連盟理事長、ほか理事9人

日本連盟 御手洗総裁、奥島総長、水野理事長、ほか理事6人

議 題：中長期計画（案）について/2023年度事業計画（案）について/2023年度予算（案）について/2023年度全国大会および県連盟代表者会議について/100周年記念事業について/25WSJについて/新登録システムについて 他

（10）次年度以降の主催大会準備

①13NA開催

高崎友延実行委員長（福島連盟理事長）のもと、実行委員会を再編成し、総合サービスセンター、活動サービスセンター、生活サービスセンター、一般参加サービスセンター、チャレンジセンターの5つの専門部会を編成し、大会の準備を進めました。

また、加盟員に対し3月31日締切で大会シンボルマークの公募を行い、大会開催の機運を高めることができました。

②第25回世界スカウトジャンボリー（25WSJ）派遣

2023年8月1日から8月12日まで大韓民国の全羅北道セマングムで開催される第25回世界スカウトジャンボリー（25WSJ）大会への日本派遣団の準備は、2021年11月に派遣員募集要項を配布し、2022年6月30日に県連盟から日本連盟への推薦を締め切りました。

25WSJ派遣実行委員会では応募者の書類選考を行い、一部のIST応募者にはオンライン面接を行い、今後の補充を含み35隊編成1400人（スカウト1260人、指導者140人）、IST194人、派遣団本部員30人、最大で1624人の編成を行うこととしました。派遣員選考結果は7月27日に応募があった県連盟に通知するとともに、本人宛の通知を県連盟経由で送付し、「派遣団共通経費」を8月末日を期限として県連盟でまとめて納入を依頼しました。

派遣準備は、25WSJ派遣実行委員会を年度内に7回、派遣団本部常任会議を2回開催するとともに、派遣団本部会議を2回、隊長会議を2回、IST説明会とIST訓練を各1回開催し、情報の共有を進めました。8月には、25WSJ会場でスタディビジットが開催され、派遣実行委員等5人を派遣し、現地の確認を行いました。

12月と2月には、派遣員内定者全員に「派遣に関する連絡」文書を郵送し、パスポートの取得の他、派遣に必要な情報を提供し、2月の連絡文書には航空運賃・現地滞在費等を含む「出発地別経費」の納入案内を行い、2023年8月の派遣準備を整えています。

③令和5年度全国大会開催準備

岡山連盟役員と日本連盟の役員により全国大会運営本部会議を開催し準備を進めました。3月末に参加案内を発信し大会開催を周知しました。

【開催概要】

日 程：2023（令和5）年5月27日（土）～28日（日）

会 場：岡山県岡山市

岡山シンフォニーホール（開会式・表彰式）

ホテルグランヴィア岡山（交歓会）

イオンモール岡山内「おかやま未来ホール」（スカウティングエキスポ）

諸会議 市内各所

テーマ：晴れの国 おかやまから、新しい一歩。

ー地域と共に歩み、社会課題の解決に貢献するスカウティングを目指してー

④富士特別野営開催

令和4年8月に開催した富士特別野営2022の評価を踏まえて、次年度以降の富士特別野営については、参加者数・スカウトとスタッフの人数比、費用面等の問題があることから、当面開催は見送り、実施の目的から見直していくこととしました。

（1 1）組織拡充に関する県連盟支援事業

①県連盟支援事業

2022-2023年度の支援県連盟を改めて公募し、岩手、秋田県、山形県、福島、和歌山、岡山県、高知県、大分県、沖縄県の計9県連盟において、「現状と県連盟の取り組み」及び「ヒアリングシート」を作成の後、県連盟対して支援を行いました。

また、新規事業として、当委員会が必要と考える県連盟（今年度は北海道連盟）を直接訪問して、県連盟役員と組織拡充に関する意見交換を行い、必要に応じた支援を行いました。

②セミナーの開催

昨年度までの「スカウト運動活性化戦略セミナー」を「組織活性化戦略セミナー」へと改称し、組織拡充委員会が中心となり、岩手、群馬県、神奈川、静岡県、愛知、奈良県、和歌山連盟で計6回開催し、計275人の参加を得ました。

③全国組織拡充担当委員長会合

1) 全県連盟ハイブリッド型会合（11月5日・6日の2日型）

都道府県連盟の組織拡充担当委員長またはその代理者（代表1人、および1日目基調講演までの日程はほか2人まで）を対象に、オンライン・スカウト会館参加併用のハイブリッド形式で、42県連盟55人の参加を得ました。

・テーマ：「加盟員を増やすために都道府県連盟ができること、すべきこと

・内 容：①組織拡充委員会から報告（今年度の組織拡充の現状中間報告、「ワクワク自然体験あそび事業」の状況報告）

②講演「教育面から組織拡充を考える」（村田総コミッショナー）

③4県連盟の事例発表

④7グループに分かれてディスカッション

2) グループ別オンライン会合（原則年2回・各回2時間程度）

47都道府県連盟を組織拡充に関する課題や特性により7グループに分け、各グループに組織拡充委員会委員を割り当て、オンライン会合を開催しました。

（1 2）募金事業

「3. 最重点事業」の（2）－⑥100周年募金事業（未来の子どもたちの基金醸成、ミュージアム事業等）、および、「5. その他の事業」の（27）維持会費を参照

（1 3）ともに進もう助成プログラム

「4. 最重点施策の取り組み」（1）－⑦参照

(14) コラボレーションバッジ

平成 30 年度から、社会連携・広報委員会とプログラム委員会との協働により、カブスカウトを対象とした企業・団体協力による「新チャレンジ章」（呼称：コラボレーションバッジ）を展開しています。

今年度は、スカウトが高速道路の機能や役割を学び、地域や道路の今と未来を考える「ハイウェイナビゲーター」1章を追加し、合計9種類のプログラムを提供しました。年度開始前の1月から情報提供し、今年1月までの申し込みによりのべ510隊へ約5,500枚の配付・提供を行いました。

(15) ボーイスカウトとあそぼう！ワクワク自然体験あそび

【4. 最重点事業1）と共通】

(16) 富士スカウト代表表敬

富士スカウト代表による国の主要機関への表敬訪問を行い、スカウト自身の情熱の喚起と社会貢献意欲を向上させることを目的に実施しました。

2022（令和4）年1月1日から12月31日までに富士スカウト章を受章した18県連盟88人（うち38人は新型コロナウイルス対応における進歩に関する特別措置により取得）のスカウトを事業対象者とし、その中から県連盟に推薦された代表スカウト90人により実施しました。

【首相官邸への表敬訪問】

日 時：2023（令和5）年3月23日（木）17:30～17:45

場 所：首相官邸

※今年度は首相官邸で岸田総理大臣と永岡文部科学大臣を表敬訪問しました。

参加者：代表スカウト16県連盟45人

【秋篠宮皇嗣殿下へのご接見】

日 時：2023（令和5）年3月31日（木）10:00～11:15

場 所：赤坂東邸

参加者：代表スカウト16県連盟45人

決意の言葉、司会、弥栄を行うスカウトは、自己紹介等の動画を提出資料とし選考を行い、表敬訪問に参加するスカウトは、訪問日前日に集合し1泊2日の準備訓練を実施しました。

首相官邸への訪問では、岸田内閣総理大臣より励ましの言葉を、永岡文部科学大臣から激励の言葉を賜りました。

皇嗣殿下へのご接見では、富士スカウトたち一人ひとりが、自身が挑戦した社会貢献や高度な野外活動プロジェクトについて殿下へ説明し、殿下からのご質問にお答えするなど貴重な時間をいただきました。

昨年度の事業対象者は23県連盟132人に対し今回88人で、富士スカウト章取得者はベンチャースカウト全体（5,622人）の約1.6%でした。

2022（令和4）年度（4月1日～3月31日）の富士スカウト章受章者は、24県連盟129人となり、2021（令和3）年度受章者22県連盟120人からも、新型コロナウイルス対応における進歩に関する特別措置により例年並みに取得者が戻りつつあります。

(17) スカウトの日

スカウト運動が地域社会に根差した実践活動であることを広く社会に周知することを目的に、環境保全や環境美化をはじめとしたさまざまな活動を「スカウトの日」として全国各地で実施しています。日本連盟は創立100周年を迎える2022年は、世界的な環境課題の一つである海洋問題に取り組むテーマを設定して、全国一斉のプログラムを実践しました。

【実施概要】

実 施 日：2022年9月19日（月・祝日）

実施場所：全国各地

協 賛：一般財団法人セブン-イレブン記念財団

後 援：文部科学省、環境省、厚生労働省

実施内容：環境保全・環境美化活動、敬老の日等に沿った社会奉仕活動

一般児童を招待して展開する活動、国際貢献に関する活動
災害復興支援活動、各団・県連盟の状況に応じた活動

テーマ：プラごみバスターズ大作戦～Love & Seve the Ocean～

参加報告集計結果は、参加団 253 団、参加者 5,518 人であった（前年度実績参加団 475 団、参加者 10,870 人）。今年度は、100周年の年もあり、全国 1,800 団全ての団が取り組むこととして案内と活動資材の送付を行いました。日本最大級の環境展示会「エコプロ2022」にブース出展して、同時に展開した100周年事業「プラごみバスターズ大作戦」とともに一年間の取り組みを発信しました。次年度以降も、プラごみバスターズ大作戦をテーマとして設定していくことで、今年度の取り組みで得た効果を引き続き得られると考えられます。

(18) 指導者養成体制の充実

指導者養成を担う全国のトレーナーを支援する目的で、下記の事業を実施しました。

① 県連盟ディレクター研修会

県連盟ディレクターとしての能力向上とモチベーションを維持する目的で、今年度より「県連盟ディレクター研修会」として、那須野営場で開催しました。

各種訓練コースの評価・分析等の報告のほか、トレーナー研究集会とは異なる「課程別研修の課題と改善点の研究」と「県連盟ディレクターの役割と責務の研究」の2テーマについて研究を深め、県連盟ディレクターとしての役割を見つめ直す機会とした。

② トレーナー研究集会

今年度は、下記の通り開催しました。

- －日本連盟伝達事項等については、動画を配信し、事前に各自で視聴する。
- －グループワークを伴う研究については、令和5年2月4日から26日まで全国11会場で対面での実施とする。
- －共通研究テーマを「導入・基本訓練修了者への任務中の支援」と「トレーナーとしての任務中の支援の具体策」に設定し、研究のポイントを示して各地で研究を行った。
- －全国のトレーナーに隊指導者・団指導者への支援の方法について深く考察する機会となっている。

③ 新任副リーダートレーナー研修会

副リーダートレーナーコースを修了し、トレーナー就任を承諾された者を対象に、委嘱状と3ビーズの授与の他、各種手続き、トレーナーとしての心構えについて研修を行いました。

3月4日（土）東会場：日本連盟・スカウト会館

3月5日（日）西会場：大阪スカウト会館

トレーナーの任務や、必要な資料の活用方法、関連する教育規程について研修を行い、トレーナーとして奉仕する決意を新たにす有意義な研修となっています。

④ 日本連盟ディレクター会議

定例のディレクター会議を4回開催（対面2回、オンライン2回）した他、オンラインにて随時臨時会議を開催しました。

(19) JOTA-JOTI

次のとおり実施しました。

【ジャンボリー・オン・ジ・インターネット2022/ジャンボリー・オン・ジ・エア2022】

開催日時：2022年10月14日（金）00:00～16日（日）24:00 72時間

日本連盟ウェブサイトの特設ページを設けて、事前申請と事後報告をお願いしたところ次のとおり申請・報告がありました。

事前申込：27県連盟114件 ⇒ 事後報告：23県連盟74件（回答率64%）

また、JOTA-JOTI 2022に合わせて、アマチュア無線を中心とした JOTA 体験会（JOTA-JOTI PLAZA 2022）を開催しました。

【JOTA 体験会：JOTA-JOTI PLAZA 2022】

開催日時：2022年10月15日(土)、16日(日)2日間 10:00～16:00(時間入れ替え制)
 15日(金)は設営と訓練日 時間は会場毎に異なる。

開催場所：東京会場 スカウト会館(東京・杉並区)
 愛知会場 北名古屋第1団野営場(愛知・北名古屋市)
 大阪会場 池田市民文化会館(大阪・池田市)
 鳥取会場 木土愛楽園(鳥取・鳥取市)

東京サテライト会場 JARD本部・ハム教室(東京・豊島区)

参加人数：東京会場 94人(スカウト59人、指導者・見学35人) 14こ隊
 愛知会場 45人(スカウト23人、指導者・見学22人) 5こ隊
 大阪会場 118人(スカウト75人、指導者・見学43人) 11こ隊
 鳥取会場 20人(スカウト10人、指導者・見学10人) 7こ隊

東京サテライト会場 22人(スカウト19人、指導者・見学03人) 3こ隊

運営支援：日本ボーイスカウトアマチュア無線クラブ
 日本アマチュア無線連盟(JARL)東京都支部・埼玉県支部
 JARL東海地方本部・愛知県支部、モリコロアマチュア無線クラブ
 JARL関西地方本部、池田市民アマチュア無線クラブ
 アマチュア無線振興協会(JARD)、アイコム株式会社、アツデン株式会社

後援申請：総務省

アマチュア無線の免許を持っていないスカウトでも機器に触れ交信することができるよう、体験局兼記念局コールサインの発給を受けて、スカウト加盟員の運用する局を含め、全国のアマチュア無線局と実際に交信を行いました。今年度は、東京「8J1JOTA」愛知「8J2JOTA」大阪「8J3JOTA」鳥取「8J4JOTA」の4つのコールサインにて運用を行ないました。今年度は、東京会場でこれまで参加したスカウトを対象として、サテライト会場を設けて、より一層の無線交信を行う機会を設けました。

<取り組み内容／実施評価>

- ・世界スカウト機構が主催する公式国際行事として、世界中のスカウトが、アマチュア無線交信やインターネット通信での情報交換により、互いを理解し知識と友情を深めた。
- ・国内の運用・参加について、23県連盟74件の報告があり、JOTA参加が39%、JOTI参加が35%、両方への参加が26%で、参加スカウト961人、参加指導者・支援者743人、見学者176人の計1,704人であった(前年度は93件、延べ1,382人)。
- ・昨年度から運用の報告件数は減少しているものの、参加人数は300人以上大きく伸ばしており、地区や団でJOTIを中心に実施するところが増え、参加者・見学者ともに増加した。

(20) RCJの取り組み

全国ローバースカウト会議は結成から11年が経ち、その運営方法や全国の県代表とのコミュニケーション方法も時代に即して年々強化してきています。

今年度は、以下の主要3事業に取り組みました。

①プロジェクトアイデアコンテスト

「MOTI next」および「RCJフォーラム2022」を開催し、全国のローバースカウトおよび同年代の指導者が各々の活動についてそのアイデアについて持ち寄り、これから実践していくローバリングの内容をより高度なものへとするための相互な啓発が生まれました。また、RCJフォーラム2022においては、実際に多くの成人指導者から講演をいただいたほか、ローバースカウトの策定するプロジェクトについての評価をいただく機会を展開することができました。

②部活システム

「スカウトの興味関心に基づき、地理的な垣根を超えて繋がり合い、全国のローバースカウトが参加可能なコミュニティを作る取り組み。」を、プログラム委員会と協働し、実動に向けて整備を進める1年となりました。整備における多くの検討を重ねましたが、実働の段階まではたどり着けなかったという点は、2023年度以降の課題として継続して取り組んでまいります。

③RCJ Webに活動を集約

現状のWebページを改善し、情報にアクセスしやすい環境整備を進めました。2023年度以降は情報の双方向なやりとりの実践に向けて、さらに展開を進めてまいります。

主要3事業以外においては、大学ローバー隊へ活動状況等のヒアリング、日本連盟コミッショングループ、常設委員会との連携など、ローバースカウト、ご支援いただいている成人指導者の皆様と共同していくことに努めてまいりました。

【主管事業】

RCJフォーラム2022

日時：2023年3月18日（土）～19日（日）

場所：バーチャル空間ツールoVice（オヴィス）によるオンライン開催

参加者：25県連盟68人（実行委員10名を含む）、

RCJ運営委員会アドバイザー、プログラム委員

運営：RCJフォーラム2022実行委員会

テーマ：「ネ has great potential」

目的：参加者が発表や話し合いを通して、自身に取り組むべき社会課題を見つけ、ローバースカウト活動の社会的価値向上に繋げる契機とする。

目標：

- ・RS部門や活動の理解を深めるとともに、社会課題の解決とRS部門や活動の関係性を理解する。
- ・他者との話し合いから、社会のさまざまな課題を認識し、同時に社会課題の解決に取り組むための具体的な道筋のイメージをもつ。
- ・実際の活動事例や、さまざまな環境で活躍している参加者と交流することで、視野の拡大と課題解決の手法、有用なフレームワークを学ぶ。



（21）賠償責任保険

全ての加盟員に対人（1事故最大5億）および対物（1事故最大500万円）の賠償責任保険を付保し、万が一の際の損害賠償をカバーしました。

また、2021年度より、日本連盟役員の賠償リスクを補償し、安心して組織運営ができるよう会社役員賠償責任保険も付保しました。

（22）難民支援衣料回収プロジェクト

2016年から継続して実施している本プロジェクトは、難民キャンプでの衣料不足がまだ続いていることから本年度も実施しました。春と秋でそれぞれキャンペーン期間を設けて全国の団に参加を呼びかけ、春期間では約700人の参加により7,000枚以上を回収、秋期間では約1,000人が参加して21,000枚以上の衣料をユニクロ店舗に届けることができました。回収した衣料はユニクロを展開するファーストリテイリング株式会社により仕分けされ、国連高等弁務官事務所との連携により難民キャンプへ運ばれます。このプロジェクトの実施にあたっては、「難民」についての理解を深めることができるようワークブックを用意して、スカウトたちが世界課題を知ることから自ら行動するところまで一貫したプログラムとなりました。

（23）スカウトと社会をつなぐ場所

昨年度はすべてオンラインでの開催でしたが、今年度はハイブリッド型（現地参加とオンライン参加の両方）での開催としました。それにより、関東近郊のスカウトだけでなく遠方のスカウトも参加できることに加えて、現地で参加したスカウト同士は交流の機会にもなりました。

企業の第一線で活躍する方をゲストに向けた本事業ではローバースカウト年代にとって有益なものであり、アンケートからも好評であることを確認することができました。また、スカウトOBを招くかたちの「ようこそ、先輩」も実施することができ、また新たにスカウトOBとの接点を持つ機会となりました。

（24）「人生の岐路に立つ君へ」事業

昨年度（2022年3月）に発送した1,650人（内、59通は「あて所に尋ねあたりません」

等で事務局に戻り)の手紙を送付し、9人のスカウトから新しい住所地の団を紹介して欲しい旨の連絡がありました。9人の内1人は同一県内での住所異動であったため、県連盟に対応を依頼しました。8人は、都道府県を跨いだ住所異動であったため、新しい住所地の団を紹介し、全員が活動を開始しました。

今年度については、2023年3月8日までに対象スカウト1,644人(内、62通は「あて所に尋ねあたりません」等で事務局に戻り)へ発送しました。

(25) 表彰事業

2021(令和3)年度に審査した2022(令和4)年度表彰について、表彰者名簿・表彰状の作成、記章類の購入を行いました。また、追加表彰についても同様の対応を行いました。

(26) 組織拡充顕彰

2022年度全国大会での表彰式において、2021年度の顕彰を実施しました。

【県連盟対象】①加盟員数の増加=14県連盟、②BVS隊設置=4県連盟、
③継続登録者率=2県連盟、④団数の増加=該当なし

【団対象】Sランク=7県連盟8こ団、Aランク=23県連盟67こ団

2022年度については、12月2日付で全県連盟宛に文書発信し、「2023(令和5)年度全国大会」表彰式において顕彰します。

(27) 維持会費

2022(令和4)年度の維持会費実績は次のとおりであった。

維持会費の協力依頼 2022年度維持会費収入予算 37,000,000円】

入金額54,295,000円(前年度額 48,837,121円)

維持会員	総計	4,100	個人・法人
(内訳)	通常維持会員	3,858	個人・法人
	特別維持会員	83	個人
	法人維持会員	119	法人
	旧特別維持会員	40	個人・法人

維持会費入金額

当該年度実績額	61,384,300	円(予算額の106.8%)(対前年108.8%)
当該年度予算額	57,500,000	円
前年度実績額	56,460,424	円

当該年度実績額内訳

県連盟取扱額	54,295,000	円(予算額の146.7%)(対前年111.2%)
県連盟協力依頼額	37,000,000	円
前年度実績額	48,837,121	円
日本連盟取扱額	7,089,300	円(予算額の34.6%)(対前年92.9%)
日本連盟予算額	20,500,000	円
前年度実績額	7,623,303	円

- ・目標達成県連盟は38県連盟であった。
- ・マンスリーサポート維持会員の推進については、月額1,000円(年額計12,000円)からのカード自動引き落としによるマンスリーサポート維持会員の制度の拡大に努めている。マンスリー維持会員は合計215人となっている。(前年度195人)

スカウトライオンズ/スカウトロータリアンについては、例年通り、維持会費として63件の入金実績があった。

(28) 写真コンテスト／ムービーコンテスト

①写真コンテスト

昨年同様11月から2月末まで募集し、少年少女の部では184点、青年成人の部では215点、そして、昨年から新たに導入したオンライン投稿の部では191点と計590点の応募がありました。今年度より新しくプロカメラマンや雑誌編集者の方に審査員としてご協力いただき、少年少女の部と青年成人の部の最優秀・優秀・入賞作品を決めていただきました。オンライン投稿の部についてはオンラインの特性を生かして「いいね」数などから入賞作品を選定しました。本コンテストにはキヤノン株式会社からの賞品提供協力を得て、企業との連携事業の一環となりました。

②ムービーコンテスト

ムービーコンテストを本年度も開催し、全国から集まった動画作品のなかで、「いいね」数の多いものを選び、その中から俳優で現役の指導者でもある金田賢一氏に最優秀賞と優秀賞をそれぞれ決めていただきました。また、本コンテストにご協賛いただいている株式会社ゴーゴーカーレグループよりスポンサー賞も選定していただきました。

(29) スカウトライブラリー運営事業

日本連盟スカウト会館内にあるスカウトライブラリーは、新型コロナウイルス感染防止のため開館日を設定して、事前申込による運営しました。

スカウト会館内の移転作業に伴い、2月～5月（予定）で休館としました。

(30) キッズフェスタ

毎年春と秋の二度、国立青少年教育振興機構の依頼により、自然体験活動の実践の場として、プログラムブースの実施協力を行っています。ここ数回は感染症拡大に伴い、主催者の判断により中止となっていました。が、「第9回 春のキッズフェスタ」が行われ、東京連盟からの指導者およびローバースカウトの協力により、次のとおりプログラムを実施しました。

【2022年5月28日（土）】

昼の部 10:30～15:45 全体で1,205人（366家族）が参加

提供プログラム：火おこし体験

夜の部 16:30～20:00 全体で86人（30家族）が参加

提供プログラム：キャンプファイア体験・ガールスカウト様と協働

なお、秋のキッズフェスタについては、国立オリンピック記念青少年総合センターの改修工事の都合により実施されませんでした。

(31) 機関誌「SCOUTING」の発行

年度当初の計画通り計6回の発行を行いました。

発行部数：35,000部（5月号～1月号）、33,500部（3月号）

なお、9月号は「日本スカウトジャンボリー記念号」と題し、8ページ増量して編集を行い、分散開催となった日本ジャンボリーの中で各地のスカウトの奮闘ぶりを伝えられるよう務めました。また、今年度から、日本連盟の各種委員会を横串的に貫く「広報連絡会議」を設置し、各種委員会からの情報発出をより円滑にすすめることができました。

(32) 出版物刊行

本年度は次の書籍の発行を行ないました。

〈新刊〉令和4年5月27日『日本連盟規程集』令和4年版

〈改訂〉令和4年8月2日『ボーイスカウト指導者手帳』改訂版2022

令和4年9月28日『救急法 野外活動における応急手当』改訂版2022

〈増刷〉令和4年5月26日『月の輪ハンドブック』6刷

令和4年6月20日『カブスカウト歌集』53刷

令和4年6月24日『スカウトハンドブック・アドバンス』4刷

令和4年6月24日『ボーイスカウト安全ハンドブック』3刷

令和4年11月18日『スカウト進級手帳』4刷

令和4年12月28日『ボーイスカウト集』24刷
令和5年2月13日『りすの道』8刷
令和5年2月13日『カブブック うさぎ』8刷
令和5年2月13日『カブブック しか』8刷
令和5年2月13日『カブブック くま』8刷
令和5年2月13日『カブブック チャレンジ章』8刷
令和5年2月28日『スカウトハンドブック・ベーシック』第2版5刷
令和5年3月13日『ビーバースカウト歌集』29刷
令和5年3月13日『カブスカウト隊リーダーハンドブック』3刷

(33) 電子媒体 (インターネット)

コロナ禍の中で進んだICTの普及に対応し、「LIVE配信」「動画コンテンツ」「SNSの活用」に重点を置いた利活用改革を進めました。(以下、再生回数は全てR.5 4月末時点)

「LIVE配信」では、リアル開催に戻った「全国大会」を全国に配信し、登壇者による舞台袖からの出演などの演出も功を奏し、再生回数は6,865回となり、多くの加盟員らに大会の意義を伝えることができました。その他、18NSJのジャンボリー大集会の配信は再生回数33,471回となりジャンボリー参加者以外にも多くの視聴者獲得につながったといえます。

クラウドファンディングではあらたにYouTube、Facebook、TwitterのSNSに同時LIVE配信できる仕組みを導入し、合計18回のLIVE配信を実施。合計再生回数29,807回と情報発出の手段とノウハウを大きく飛躍させることができ、その手法がもととなり、プログラム委員会主催の各種オンラインセミナーの下支えをすることが出来ました。

「動画コンテンツ」では、4月13日の日本連盟創立100周年記念の日に100周年ソングを披露する動画配信を実施。再生回数6,357回となった他、100周年記念式典でも上映した「日本連盟100周年記念動画」は8,304回、「記念式典ドキュメント動画」は2,804回と、ともに来場できなかった関係者らにも感動を届けることに寄与した他、11月に行った「全国こども体験フォーラム」では、会場で撮影した来場者者インタビューをその場で編集し、その動画を会場限定でLIVE配信して参加者と共有することに挑戦・成功しました。

「SNSの活用」では、フォロワー増大を目的に情報発出頻度を高め、facebookで3%、Twitterで10%のフォロワー数増加に繋がれたほか、YouTubeのチャンネル登録者数は23%、Instagramでは年度当初から50%近く伸びてフォロワー数1万人を突破しました。

これらの各種取り組みを支えているのが全国の指導者らで構成される「PRドリームチーム」のメンバーであり、日本のボーイスカウト運動の発展への寄与となることを願いに、すべて手弁当で活躍いただいているプロ・セミプロの方々が多くいることを改めてご紹介いたします。

(34) 海外支援

①ウクライナ支援

「ウクライナ情勢に対する対応について」情報ポータルサイト

<https://www.scout.or.jp/member/ukraine/>

街頭募金の実施に当たっての対応、支援チーフリングの販売、平和に関する活動報告フォームの提供などを行いました。

②トルコ・シリア大地震

・「トルコ・シリア地震支援」情報ポータルサイト

https://www.scout.or.jp/member/turkey_syria/

見舞金の送金、寄付受付、街頭募金の実施に当たっての対応、支援ワッペンの販売を行いました。

・ヤフーネット募金「ボーイスカウトが緊急支援」

<https://donation.yahoo.co.jp/detail/5483002>

ヤフージャパンとの連携により実施しました。

6. 各種会議の開催

(1) 評議員会

下記の通り開催しました。

【第1回】

日 時：5月27日（金）13：24～15：00

場 所：兵庫・アクリエひめじ

出席者：谷口評議員長、ほか19人、参席10人

議 題：2021年度決算について/評議員・理事・監事の選任について 他

【臨時第1回】

日 時：5月27日（金）16：00～16：30

場 所：兵庫・アクリエひめじ

出席者：評議員23人、参席7人

議 題：評議員長および副評議員長の選任について その他

【臨時第2回】

日 時：1月28日（土）11：00～12：40

場 所：東京・明治記念館およびオンライン

出席者：永井評議員長、ほか評議員25人、参席理事7人

議 題：不動産取得/日本連盟中長期計画/日本連盟クラウドファンディングについて

【臨時第3回】

日 時：2023年3月11日（土）14：00～16：20

場 所：日本連盟スカウト会館会議室およびオンライン

出席者：永井淳評議員長、他評議員23人、参席理事6人、監事1人

議 題：理事の人事について/名誉役員の選任について

(2) 理事会

下記の通り開催しました。

【第1回】

日 時：5月10日（火）14：00～16：10

場 所：日本連盟・スカウト会館およびオンライン開催

出席者：水野理事長、ほか理事14人、参席4人

議 題：2021年度の事業報告について/2021年度の決算について/定時評議員会の開催について/臨時評議員会の開催について/2022年度維持会費の都道府県連盟への協力依頼について/任期満了に伴う名誉会議議長の選任について/その他

【臨時第1回】

日 時：5月27日（金）15：15～15：45

場 所：兵庫・アクリエひめじ

出席者：理事22人、監事2人

議 題：理事長および副理事長、専務理事、常務理事、総コミッショナー、業務執行理事の選任について/小委員会とタスクチームの編成について/教育規程施行細則（救急章細目）の改正について

【第2回】

日 時：10月1日（土）14：00～17：05

場 所：日本連盟・スカウト会館およびオンライン

出席者：水野理事長、ほか理事21人、参席2人

議 題：2023（令和5）年度事業計画策定日程について/2023（令和5）年度国の委託事業・公益団体等補助事業について/委員会委員長等の交代について/任期満了に伴う県コミッショナーの交代について/18NSJ日本一プログラムにおける記章の着用について/信仰奨励小委員会の編成について 他

【臨時第2回】

日 時：1月7日（土）14：00～17：00

場 所：日本連盟・スカウト会館およびオンライン

出席者：水野理事長、ほか理事20人、参席監事2人

議 題：第2回臨時評議員会の議案について/災害（東日本大震災）に伴う登録料の支援を行うことについて/特別委員会の設置について/東京連盟との契約の見直しについて/不動産取得について 他

【第3回】

日 時：3月11日（土）10：00～13：10

場 所：日本連盟スカウト会館 会議室およびオンライン

出席者：水野正人理事長ほか理事21人、参席監事2人

議 題：第3期中長期計画（2023年度～2032年度）について/2023年度事業計画について/2023年度予算について/第18回日本スカウトジャンボリーの決算について/加盟登録料の減免について/2023年度第1回評議員会（定時）の議案について/規程の改正について/情報伝達に関する提案について/理事の辞任について/名誉役員を選任につい/常設委員会委員の委嘱について他

（3）スカウト教育推進本部会合

教育規程の改正に基づき、新たな「総コミッショナー体制」のもと、スカウト教育に関わる事項について企画・立案し、県連盟との協力により、スカウト運動の基準の維持を図るとともに、所管業務の執行に当たる機関として設置されました。

今年度の開催状況は、以下の通り。

第1回： 5月15日（日） 場所：スカウト会館

第2回： 9月 3日（土）～ 4日（日）場所：スカウト会館

第3回： 11月12日（土）～13日（日）場所：スカウト会館

第4回： 2月11日（土）～12日（日）場所：国立オリンピック記念青少年総合センター

【主な協議事項】

- ・ 教育規程改正
- ・ コミッショナーの取り組む教育施策の推進
- ・ プログラム委員会の取り組み
- ・ A I S委員会の取り組み
- ・ 青年の参画方針と青年の意思決定プロセスへの参画に関する方針
- ・ 全国スカウト教育会議の内容
- ・ 全国県コミッショナー会議の内容
- ・ 各事業における新型コロナウイルス感染症対応
- ・ 全団調査の活用
- ・ 全国ローバースカウト会議への支援
- ・ 各常設委員会との連携事業の推進

（4）常設委員会

①総務委員会

11回の委員会を開催し、下記について取り組みました。

- ・ 理事の業務執行内容の確認
- ・ 各委員会の施策の確認、連携及び情報交換
- ・ 協力事項の確認
- ・ 連盟行事及び会議等の内容及び進行の調整及び確認
- ・ 日本連盟運営に関する各種協議

②財務委員会

4月、9月、12月、2月に計4回の委員会をオンラインで開催し、予算案、決算案等を策定しました。

③共済委員会

4月、6月、10月、3月に計4回委員会を開催。委員会開催の合間に決定しなければならない事案がある場合は、メールのやり取りにて確認や協議を行いました。（各事業については当該欄参照）。

④広報委員会

4月から年内は3週間に1回の頻度で開催し、年明け以降からは月に1回開催（オンライン15回、対面2回）し、担当事業等について協議を行いました。なお、Slackを活用することで委員会内のコミュニケーションを密にし、事業推進に努めました。（各事業については当該欄参照）。

⑤組織拡充委員会

8月を除く毎月、計11回の委員会を開催（対面3回＝内1回は全国組織拡充担当委員長会合後、ハイブリッド1回、オンライン7回）し、担当事業等について協議を行いました（各事業については当該欄参照）。

⑥プログラム委員会

毎月定例で委員会を開催（対面1回、オンライン11回）し、各施策や担当事業等について協議を行いました（各施策・事業については当該欄参照）。

⑦Adults in Scouting (AIS) 委員会

定例の委員会を4回開催（対面2回、オンライン2回）した他、オンラインにて臨時委員会を10回開催しました。

⑧社会連携小委員会

3週間に1回の頻度で開催（オンライン15回、対面1回）し、担当事業について協議を行いました。（各事業については当該欄参照）。

⑨資金醸成小委員会

月に1回の頻度で開催（オンライン11回、対面1回）し、各施策や資金醸成に資する内容について協議しました。

⑩DX小委員会

4月30日（土）にオンライン会議を行い、今後の活動について協議しました。

(5) 特別委員会

①第13回日本アグーナリー実行委員会

高崎友延実行委員長（福島連盟理事長）のもと、実行委員会を再編成し、第2回（第1回は前年度で前委員長）～第4回の実行委員会を開催し、また、総合サービスセンター（梶原部会長）、活動サービスセンター（植田部会長）、生活サービスセンター（黒田部会長）、一般参加サービスセンター（大関部会長）、ツチャレンジクルーセンター（河村部会長）の5つの専門部会を編成し、大会の準備を進めました。

②100周年記念事業実行委員会

2020年度に編成した実行委員会により、本年度は第9回～第15回の実行委員会をオンラインで開催し100周年の各種記念事業を推進しました。

③第18回日本スカウトジャンボリー実行委員会

正副委員長会議を定期的にオンラインで開催し、各部の進捗状況の確認と部署間の業務すり合わせを行い、インフォメーションの発行、ウェブサイトやアプリを通じた情報を発信しながら、各会場の情報を収集・共有しました。

④第25回世界スカウトジャンボリー（25WSJ）派遣実行委員会

出田行徳実行委員長（派遣団長・常務理事）のもと、各ブロック選出委員を含む10人で実行委員会を編成し、本年度は第4回から第10回までの7回の委員会を開催し、派遣員の募集と選考、派遣団の編成を行いました。

(6) 全国県コミッショナー会議

本会議の任務を、(1)本連盟が推進する教育活動の「基準」を維持し、純正な発展のために必要な施策を推進すること。(2)県連盟の実状を教育推進本部に報告し、本連盟の施策策定に資すること。(3)県コミッショナー相互の研鑽により、その資質向上を目指すこと。に改正し、各県におけるスカウト教育の推進、指導者の資質の向上に向けた様々な協議、意見交換が行われました。

第1回： 5月28日（土）場 所：兵庫・アクリエひめじ

第2回： 10月 8日（土）場 所：東京・国立オリンピック記念青少年総合センター

第3回： 1月14日（土）場 所：スカウト会館

(7) 新年賀詞交歓会

新型コロナウイルス感染拡大のため開催中止としていましたが、3年ぶりに開催し、逢沢一郎ボーイスカウト振興国会議員連盟会長をはじめ16人のご来賓をお迎えしました。三毛副理事長による乾杯後、歓談。100周年記念式典等の映像や100周年記念ソングを紹介し、村田総コミッショナーによる弥栄等、新年をお祝いしました。

日 時：1月28日（土）17：00～19：00

場 所：東京・明治記念館

出席者：ボーイスカウト振興国会議員連盟会員、企業・団体関係者、水野理事長、ほか日本連盟役員、都道府県連盟理事長等 合計83人

(8) 宗教関係代表者会議

2022年度から新たな任期となることから、各教宗派の代表者（15教宗派16人）を推薦いただきました。コロナ禍の影響により2期4年間は会議を開催できずにいましたが、2023年3月4日にボーイスカウト会館でオンラインを併用しながら会議を開催し、今後も日本連盟の諮問に 대응していくため定期的に開催していくこと、また、各教宗派においてもこの宗教関係者の会の会員拡大を進めていくことを確認しました。

(9) 名誉会議

第1回会議（9月10日）では2023（令和5）年度表彰の審査基準を協議し、第2回会議（2023年3月25日）において審査を行いました。また、100周年記念特別表彰の検討のため、臨時会議を1回開催しました。

表彰者については、「2023（令和5）年度）表彰者名簿」参照

7. 【参考】規程等改正一覧 /

1. 日本連盟機構改革に関する教育規程の改正

承認：2022年 3月 8日 理事会承認

施行：2022年 4月 1日

2. 教育規程第9章「制服及び旗」に関する規程の改正

記章（100周年記念募金感謝章）の新規制定

承認：2022年 5月10日 理事会承認

施行：同日施行

3. 教育規程第7章「教育の方法」7-63 技能章に関する規程の改正
承認：2022年5月27日 理事会報告
施行：同日
4. 教育規程第7章「教育の方法」7-52 チャレンジ章に関する規程の改正
承認：2022年10月1日 理事会報告
施行：2023年4月1日
5. 教育規程第3章「団」 3-75 組織
教育規程第5章「地区」5-8 地区コミッショナーの委嘱及び任務等
教育規程第6章「全国」6-10 青年代表者
承認：2023年3月11日 理事会承認
施行：2023年4月1日
6. 利益相反防止規程の制定
個人情報管理規程の改正
プライバシーポリシーの改正
承認：2023年3月11日 理事会承認
施行：2023年4月1日

8. ボーイスカウト（BS）エンタープライズ事業報告 /

一般財団法人ボーイスカウトエンタープライズ（以下BSE）の事業年度である2022年2月1日から2023年1月31日までの販売実績は280,234千円（税抜き）で、前年比で約113%と（前年度は247,285千円）、税引き前利益は、25,453千円となった。

2022年度は、8月開催の第18回日本スカウトジャンボリーや11月開催の100周年記念式典などの記念品などの制作に注力した。

1. 在庫の適正化、効率化

前年度に引き続き、各商品は適正在庫数量に調整を進めた。各商品の発注ロット数の見直しや受注販売などの展開を行い、倉庫の管理料などの固定費の削減を行った。

2. 新商品開発、新販売方法

日本連盟商品開発小委員会を中心に、ジャンボリーや100周年グッズの開発・販売に注力した。

例年好評の福袋については冬季限定販売の要素としてトートバッグと限定ワッペンを作成し付加価値を高めて販売したところ即日完売となった。

また、売れ残りによる在庫問題や、商品の付加価値などを考慮し、限定記念品の抽選販売方式に挑戦。様々な意見をもらうが、応募数や商品の完成度等は多くの方に高評価をいただいている。

3. コロナ禍への対応

コロナ禍の状況を踏まえ、スカウトショップ東京の運営に関して、引き続き消毒や検温を継続的に行っている他、感染防止設備などの設置など、安心した環境づくりを行った。また、情報伝達に関してもSNSやメールマガジンなどのインターネット媒体をより活用し、素早い広報をつとめ、お店に来なくても購入できるOnline Shopの利用を増やした。

4. 職員の業務見直し

担当職員の離職による人員減少を業務委託先の日本連盟事務局との連携強化で、企画から、仕入、販売までのプロセスを小人数かつスピーディーに行えるよう、担当職員の業務を再度見直しなどを行った。

5. その他

用品の販売の意味、意義を再確認し、適正な価格の設定を行い、都道府県連盟との関係、協力会社との関係を見直し、よりスカウト運動に貢献できる事業展開を今後も継続する。

スカウトショップ東京について現在の荻窪駅前からお茶の水への移転計画を推進中である。

